

飛騨 山城セミナー第3弾 内堀信雄先生に学ぶ！ 講演記録

日時:2019年10月19日(土) 13:00~14:30

場所:末高総合研修センター

## 飛騨地方の戦国期城郭石垣の様相

講師:<sup>うちほり</sup>内堀 <sup>のぶ お</sup>信雄 氏(岐阜市教育委員会)

### はじめに

ただいま紹介いただきました内堀です。栃木県の生まれで、金沢大学で考古学を勉強し、名古屋大学大学院で陶磁器を研究しました。もともと城にさほど興味があったわけではありませんが、勤務地に岐阜城があり、仕事上関わったのがなれそめです。たいへんマニアックな話をするかもしれませんが、よろしくお願いします。

### 1 目的

今日は「飛騨地方の戦国期城郭石垣の様相」ということで発表します。私はこれまで30年くらい美濃地方の戦国時代石垣を調べてきましたが、美濃と比べた場合に、飛騨地方の特徴はどんなところにあるのかというという観点でお話しします。飛騨について全くの素人で、皆さんご存知のことの方がはるかに多いと思いますが、ご容赦いただければと思います。戦国期と書きましたが、だいたい16世紀後半、織田信長から豊臣秀吉にかけての時代の話が中心です。飛騨で言いますと、姉小路氏の次、三木氏から金森氏にかけての時期です。



## 2 石垣とは

文化庁が出している『石垣整備のてびき』というマニュアル本あります。それを読むと「石垣とは石を積み上げて築造した工作物」とあります。信長・秀吉の時代、織豊政権から後になると石垣の大規模な城が築かれるようになります。その初期の代表例が滋賀県近江八幡市にある安土城です。1576年に織田信長が築城を始めた初期の織豊系城郭です。滋賀県立大学の中井均先生は、礎石、瓦、石垣が一体となった城が織豊系城郭である提唱されました。最近、天守に代表される高層建物（土台は礎石）、金箔瓦、高さ5m以上になる様な高石垣を持つ城が典型例であり、その出発点が安土城だと言われています。

## 3 研究方法

考古学的方法は主に遺構と遺物を対象にします。遺構とは溝や穴や石垣などの動かせないモノ、遺物は動かせるモノです。考古学というと、皆さんは発掘するものと思われるかもしれませんが、それがすべてではありません。遺構や遺物といったモノを相手にしていれば、考古学研究と言えます。石垣は発掘しなくても地表に露出していることが多く、現地で確認できるので、考古学に適した対象であると私は考えています。考古学では、基本的な作業として、まず実測図を書きます。例えば、立面図（りつめんず）という正面から見た図があります。こういう実測図を作ってそれを基礎に研究を行います。私は、実測図は可能な限り自分で書くべきであると思っているのですが、全国各地で石垣を研究した論文に掲せられた図面は、測量会社が描いたものが大半です。大学では陶磁器を調べていましたが、図面を自分で書かないと研究と認められませんでした。自分で現物を徹底的に見て詳細な図をとって観察するのが考古学の基本であると教え込まれました。ですから全く同じことを石垣でもやる必要があると思っています。自分で書いた図なくても、発掘が行われて図面が作られていればまだよいのですが、そうした城はほとんどありません。ちなみに美濃地方で発掘されて報告書に石垣の図面が載っているものは岐阜城と可児市の金山城と各務原市の伊木山城の3か所しかありません。実際に研究対象になる城は20か所くらいありますので、仕方なく16か所は自分で山に登り、図面を書きました。残りの所は他の方が書いたものをお借りしていますが、やはりこういったことが基本かなと思います。

#### 4 研究史

今回飛騨地方の城の研究を勉強するに当たって研究史を調べました。全部説明すると時間が足りませんので、ポイントのみ述べます。1979年に村瀬一郎さんが『日本城郭大系』の中で飛騨の城について総括的に書かれました。江戸時代の『飛州志』、『斐太後風土記』、戦前に角竹喜登さんが『岐阜県史跡名勝天然記念物調査報告書』に書かれた内容などを集約されており重要です。当時珍しかった縄張図を高山市の松倉城について掲載されたことは先進事例として注目されます。1987年には森本一雄さんが『定本飛騨の城』という大作を書かれました。現地取材が素晴らしく、丹念に歩き、よく考えて書かれていて、地元の人しか知りえない情報の多さに驚きました。先程紹介した松倉城は山の上の城はよく紹介されますが、森本さんは山麓の居館や武家屋敷一帯についても克明に述べられています。こうした地元の研究者のご努力がまずありました。その後、1990年代ごろから城郭研究に縄張図が全国的に採用されるようになりました。2005年に岐阜県教育委員会が『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』を出しましたが、この本は縄張図を全面的に採用しています。その本第4分冊が飛騨の城郭にあてられています。その中で中井均さんが松倉城について、構造や石垣から見て天正13年(1885)に金森長近により築かれたとする見解を述べられました。松倉城は三木氏が築いたと考えるのが一般的でしたので、地元の方にとって衝撃的な話ではなかったかと推察します。2018年には富山県の佐伯哲也さんが中井さんの説を支持し、松倉城の石垣はやはり金森氏以降だと主張されています。佐伯さんの研究は、松倉城に限らず飛騨の城の石垣を高さ、角度、裏込め石の有無、最大径1m以上かどうか等いくつかの指標に基づいて分類して編年したことが特筆されます。今日に至るまで、飛騨地方で唯一の城郭石垣編年であり、大きな業績であると考えます。

飛騨地方の城郭石垣研究の現状は、中井均さんや佐伯哲也さんという著名な城郭研究者によって、全国の中で位置づけるという部分では進展があったと思います。ただし、村瀬さんや森本さんがやられたように地域の城郭を、伝承も含め地域史の中で説明しようとした部分は、やや弱くなっているのではないかと考えます。石垣については、もともと飛騨には金森氏以前の地元の石垣技術があります。それについては佐伯さんが若干触れておられるのみです。信長や秀吉など中央政権に直結する城郭や石垣は大きく扱われますが、元々地域で培われたものはどうしても扱いが弱くなる傾向があります。これは岐阜城でも同じです。今回研究史を勉強させていただき、改めてそのように思いました。それから、武家屋敷や寺社、町場など城の周辺は様々な構成要素が広がっていま

した。そうした全体の中で城のあり方をとらえようとする視点が、かつての研究に比べて後退しているのではないかと思います。

そんな中で飛騨市教育委員会さんが国指定に向けて5つの城を調査しておられます。そこでは城だけでなく周辺の町場を含めて空間全体をどういう場所かということを経典からも歴史地理的な事も含めて総合的にやろうとしています。全国的にみても進んだ研究であり、私も手本にしたいと思っています。

## 5 美濃地方の様相(3グループ)

いよいよここからが本題です。最初に美濃地方の城郭石垣の様相を述べます。結論から述べますと、美濃地方の石垣は大きく3つのグループに分けられました。私は石垣A類、石垣B類、巨石石垣、としています、石垣A類は裏込め石はあったり無かったりで、角度は垂直に近く、石材を上石と下石の接点石の表面付近だということが特徴です。石垣B類は若干傾斜しているものが多く、上石と下石の接点石の表面よりも奥にある。角度が傾斜して隙間ができるが、ここに間詰め石というものを詰めることが多い。

美濃地方ではこれ以外に巨石石垣と言って石のサイズが1.5m以上も有る大きな石を使った石垣があります。これは特殊な城、美濃では岐阜城と山県市の大桑城でしか見られません。この2つの城は来年NHKの「麒麟が来る」で話題になると思います。石垣A類というのは在地系、もともと地元で持っていた技術です。石垣B類は、先ほど述べた織豊系城郭、安土城で確立した新しい城作りで用いられるものです。

次に分布傾向です。城郭ごとに石垣A類が見られる城と、石垣B類と巨石石垣が見られる城の分布図を作りました。まず美濃地方は在地系の石垣A類が多く、ずっとそれしか使っていない城もあることが分かりました。巨石石垣は美濃と尾張に少数分布し、越前地方には集中している。飛騨地方は今の所確認ができません。飛騨地方は織豊系の城郭の石垣B類が多く集中しているのが特徴です。

では美濃地方の石垣と巨石石垣を実測図と写真で見て行きます。在地系の石垣A類ですが美濃加茂市の米田城、坂祝町の猿啄城、揖斐川町の小島城、山県市の大桑城にあります。猿啄城は織田信長が東美濃に進攻した時に最初に攻め落とした城ですが、そこにある石垣も在地の技術でした。美濃地方ではよくあるチャートという山の石を使っている。揖斐川町にある小島城は結構大きい石です。大桑城は守護・土岐氏が最後の拠点とした城でA類の石垣を使っている城です。

次に信長以降に技術が確立した織豊系の石垣B類ですが、これは関市と美濃市にまたがる小野城と、富加町の加治田城、岐阜城と、可児市の金山城といったところが代表例です。小野城の石垣ですが、かなり大きい自然石を積んでいます。これは加治田城の虎口、出入り口の石垣です。この部分は飛騨市の古川城・小島城と非常に似ています。ある時期になって、出入り口や中心の曲輪の部分等が織豊技術を持った石垣B類で改修されるというのが特徴です。それは飛騨も美濃も変わらず、時期もほぼ同じようです。それから岐阜城の山麓館の石垣B類ですが、全面が焼けています。この石垣を自分の手で実測しましたので、石垣の積み方がよく分かりました。石と石が表面で合わさっていると簡単に書けるのですが、奥で合わさっていると書きにくいんですね。石と石の隙間の奥の所まで測らないといけないので苦労しましたが、そのおかげで、石垣B類の特徴はよく分かりました。次は可児市の金山城、森蘭丸で有名な森氏の城です。可児市教育委員会さんが発掘していますが、大方の意見としては本能寺の変以降、正確には小牧・長久手合戦の後に整備したものと言われています。これが、岐阜城山麓館にある織田信長期と考えている巨石石垣です。2～3mの非常に大きい石で人間の背丈くらいあります。これは谷側の護岸を巨石石垣で作っているものです。この巨石石垣は、信長独自の技術であると考えられていました。今でも多くの研究者はそう言っておられますが、わたしは少し違う考えを持っています。結論を言えば、虎口を中心に巨石石垣を用いるのは、中部地方の戦国大名の流行であり、信長は流行の最先端を追いかける形で小牧山に巨石石垣を作ったのではないかと考えています。以上、実測図と写真で見えてきたように、美濃地方の戦国期城郭石垣には在地の石垣である石垣A類、織豊系石垣の石垣B類、巨石石垣の3種類が見られます。

## 6 飛騨地方の様相

いよいよ飛騨地方の石垣を見ていきたいと思います。先ずお断りなのですが、飛騨地方の石垣の実測図が非常に少ない。発掘がされていないと図化されないということで比較検討することができませんでした。しかし今回の発表のために少し自分なりに図化しました。1か所の石垣を書くのに3時間以上かかりますし、崖にへばりついて書くので危険が伴うこともあり、全てができていたわけではありません。そういう制約がある中ですが、結論から申しますと、飛騨には美濃と同じく在地の石垣A類と織豊系の石垣B類が見られます。変遷も美濃と同じと思われます。ただし、巨石石垣については今の所確認できていません。

まず在地の石垣A類からご紹介します。これは高山市の広瀬城です。小型の円礫で作られた石垣A類です。この石垣をこれだけで評価するのは難しいです。あえて言うなら、意匠的な感じがします。石垣の下の平地に何か意味があつて、その背景に意味を持たせた可能性はないかと予想しています。それから百足城です。これは非常に小形の石を用いた在地の石垣の典型的な資料です。これは下呂市の桜谷城という山城の石垣A類です。よく見るとずっとつながっています。表面観察で、図面も作っていないのでこれ以上のことは言えません。

これは向小島城の石垣A類とみられる石垣です。飛騨市教育委員会さんの今年度発掘調査で見つかりました。地表からは全く見えませんでした。発掘すると石垣が出てきて、それが盛土と一体で作られているように見えます。思いつきでやったのではなく盛り土をしながら石を積んでいく、確立した高度な土木技術が飛騨地方には存在することを示しています。恐らくこの場所は元々平面が湾曲した地形だったのだと思いますが、平坦地を確保するためにこういう盛り土をしたのだと思います。想像ですが河川の築堤等で培われた技術が採用されたのではないかと考えられます。見た目は石垣A類に似ていますが、技術上は全く別になりますので、新たな分類を設ける必要があると考えています。美濃はもとより全国的にこういう事例は殆ど無く、とても貴重な資料です。城が作られてから450年以上もの長期間、人工的な盛土であるにも関わらず崩れず形を保っていたというのは、この優れた土木技術が背景にあるからだと考えます。今まで石垣A類の技術について認識が低かったと反省しています。

次に織豊系の石垣B類ですが、実測図がありますので、写真と合わせて見て行きます。高山市の鍋山城、高山市の松倉城、萩原諏訪城です。鍋山城は在地系の石垣(石垣A類)と織豊系石垣(石垣B類)の両方の要素を持っている特殊な石垣だと考えています。松倉城は典型的な石垣B類であると思いますが、そうならない所もあります。長さ4mほどの非常に長大な石を使っているところもあります。積み方の特徴はまさに石垣B類です。全国的な石垣を研究しているとある方に教えてもらったのですが、天正期の織豊系石垣の特徴は、全体がフラットな面を持ち、石材は自然石であるということだそうです。よくコーナーが算木積みかどうか言われますが、その方は算木積みも石の大きさも関係ないと言われました。ただし、石と石が奥でかみ合うという考えは同じでした。秀吉の肥前名護屋城になると、石垣様式が変わると教えて頂きました。これは古川の増島城で、天守台の推定地なのですが、もともとのオリジナルが残っていると考えられるのは東側の部分です。これも織豊系の石垣です。図面を見たことも無いし詳しい検討ができないので先程の松倉城と比べてどうかと言うのはなかなか難しいですが、見た感じは似ています。萩原諏訪城は、昭和40年代にほとんど石垣が改修で積み直しされています。現地を見

た時に積みなおされていないのではと思うところがありました。図面を書くときよく分かるのですが、岐阜城の山麓館に積み方が似ている。これも今後本当に古い石垣でいいかどうか詳細な検討・研究が要ると思います。

飛騨市教育委員会さんが、小島城と古川城で石垣B類と思われるものを発掘されました。飛騨市教育委員会さん提供の写真でご紹介しますと、小島城では虎口周辺に用いています。これは発掘した部分ではありませんが、こういう自然石の石垣が残っています。石と石の間に空洞がありますが、本来間詰めという小さい石が充てんされていたものが、抜け落ちている状態です。この石垣の反対斜面には発掘した石垣があり、上部は立石みたいになっています。飛騨市さんの丁寧な発掘調査の結果、小島城の状況がよく分かってきました。古川城も虎口部分を調査されています。登り道から上がるはずなのですがこの上がり方がよく分かりません。ここの石材は直方体に近い石を積んでいます。これは古川城の虎口の特徴なのかもしれません。規格性を持った自然石を使っています。以上ご説明したように、飛騨地方の戦国期城郭石垣には石垣A類、石垣B類の2種類が見られ、巨石石垣は今の所確認できませんでした。

次に変遷ですが、レジュメの8ページ第3図が美濃地方と飛騨地方の石垣の変遷を図示したものです。時代の画期としては1567年の織田信長が美濃に進攻した年が一つ、それから1585年の金森長近が飛騨に進攻した年、1600年は関ヶ原の戦いですね、この3つが大きな画期になるかと思います。この画期を境に石垣の様相が変わってきているということが分かってきました。巨石石垣以外は美濃も飛騨も状況は基本的に似ています。この石垣A類は、飛騨でも美濃でも1600年までは続くのではないかと思います。1585年頃を境に、飛騨では松倉城、小島城、古川城、増島城、高山城などの石垣B類が出て来ます。美濃でも同じような状況です。ただし、織田信長の本城である岐阜城だけは例外的に1567年から織豊系城郭とよく似た石垣B類を使っています。大桑城の岩門の巨石石垣は1543年に廃絶したと考えていまして、とても古い。稲葉山城(岐阜城)の一ノ門は大桑城ととてもよく似ていることから、斎藤道三や斎藤義龍が築いた可能性があると考えています。一ノ門はひとつの可能性として1560年頃に築かれたのではないかと想像しています。私は巨石石垣の多くのものは、室町幕府に連なる秩序に位置づけられた戦国大名の権威を示す装置として1540年代～1560年代に築かれたのではないかと考えています。その推定が妥当だとすると、姉小路国司家という家名と、従三位と言う高い位を持つ三木氏も巨石石垣を持っていた可能性が高いと思います。

飛騨における石垣B類採用は 1585 年の金森長近の侵攻以後と考えています。また金森氏以降は本城が松倉城、高山城になって、支城として増島城、東町城、萩原諏訪城になるのですかね。それらはみんな城下町を伴っています。これらも本当に金森氏からなのかその前の三木氏や姉小路氏の時なのかはとても重要であって、先人たちが調べたものをふまえて明らかにしていく必要があると思います。

非常にまとまりのない話、しかも未完成の話をしましたが以上で終わります。ありがとうございました。

—了—



飛騨山城セミナー  
飛騨地方の戦国期城郭石垣の様相

令和元年 10 月 19 日（土）

於：末高総合研修センター

内堀信雄（岐阜市教育委員会）

## 1 目的

美濃地方戦国期城郭石垣との比較を通じて飛騨地方の戦国期城郭石垣の様相を明らかにすること。

## 2 石垣とは（文化庁記念物課監修『石垣整備のてびき』同成社、2015 年）

- ・「石を積み上げて築造した工作物」
- ・中世山城「一般的に西国では石垣による築城が発達し、東国では土による築城が発達したとされている。」
- ・近世（織豊時代〈1568～1598〉～江戸時代）「石垣を持つ大規模な城が全国的に築かれるようになるのは、織豊政権期以後のことであり、天正期から慶長期にかけて、石垣を持つ城が全国的に築造された。」「近世の城跡における石垣の最初期の事例が残されているのは、天正 4 年（1576）に築造された記録が残る特別史跡安土城跡であるとされている。近畿地方には、その系譜を引く「織豊系」と呼ばれる城跡が分布するが、それらは以前の城跡と比較して、礎石建物・瓦・石垣から構成されている点に特質があるとされている。」

## 3 研究方法

- ・考古学的方法…遺構・遺物を対象に過去の歴史を研究。発掘は重要な方法の一つ。
- ・埋没していない石垣は、発掘しなくても遺構の状況を観察できるため、考古学向き。
- ・発掘された石垣実測図の集成
- ・自ら現地へ赴き実測図作成→集成
- ・石垣の分類→編年→系譜関係検討

## 4 研究史（石垣中心に）※アンダーラインは石垣記載有

### （1）主要文献

①『飛州志』『斐太後風土記』

②角竹喜登「松倉城（報告 5）」「桜洞城（報告 6）」「萩原諏訪城（報告 6）」「鍋山城（報告 7）」「向小島城（報告 9）」『岐阜県史蹟名勝天然記念物調査報告書 5・6・7・9』西濃印刷株式会社、1936 年・1937 年・1938 年・1940 年

③村瀬一郎「小島城」「小鷹利城」「蛤城」「増島城」「向小島城」「高山城」「鍋山城」「松倉城」「桜洞城」「萩原諏訪城」『日本城郭大系 9』新人物往来社、1979 年

- ・過去の調査・研究を集約。松倉城は本多昇作成の縄張り図掲載。
- ④森本一雄「高山城」「松倉城」「鍋山城」「田中城（広瀬城）」「蛤城（古川城）」「増島城」「小島城」「東町城」「萩原桜洞城」「桜谷城」「萩原諏訪城」『定本飛騨の城』郷土出版社、1987年
  - ・調査者が丹念な現地調査を行い、各城の遺構現状を詳細に記述。歴史・伝承等の情報も豊富。
- ⑤林春城「松倉城」「諏訪城」『図説中世城郭事典』大日本印刷、1987年
  - ・縄張り図掲載。屋敷地等も地図上に記載。石垣構築を三木自綱の手によるとする。
- ⑥中井均「鍋山城」「松倉城」、佐伯哲也「松倉城屋敷」「小鷹利城」「野口城」「向小島城」「小島城」「増島城」「古川城」「桜洞城」「萩原諏訪城」、高田徹「高山城」『岐阜県中世城跡総合調査報告書』岐阜県教委、2005年
  - ・各地で活躍する城郭研究者の手による本格的縄張り図で構成。
  - ・松倉城について中井均は「構造や石垣などから考えて、現存する城跡は天正13年(1585)豊臣秀吉によって飛騨に封ぜられた金森長近が高山築城に先駆けて旧領主三木氏の城を改修したものである可能性が高い」とする。
- ⑦田中彰「松倉城」「高山城」、澤村雄一郎「小鷹利城」「向小島城」「小島城」「増島城」、馬場伸一郎「桜洞城」『岐阜の山城ベスト50を歩く』サンライズ出版、2010年
  - ・松倉城は測量図掲載。小鷹利城・向小島城・小島城は佐伯哲也作成の縄張り図掲載。
- ⑧中井均「記念講演会要旨一城から探る飛騨の戦国時代一」『城から探る飛騨南部の戦国時代資料集』下呂市教委・下呂ふるさと歴史記念館、2014年
  - ・飛騨地方の城郭変遷を天正13年(1585)の金森長近軍侵攻による織田・豊臣系城郭の導入を画期として素描。
  - ・土の城(大規模な畝状堅堀群)→1585年→織田・豊臣系城郭(石垣)、本城・支城体制
  - ・「(金森長近は天正13年以降、)松倉城を改修し、(天正16年に)高山城に移るまで、松倉城を本拠にし、鍋山城は途中で放棄した可能性」
- ⑨佐伯哲也の一連の論考
  - i 佐伯哲也「飛騨松倉城の石垣について」『創立40周年記念論集』岐阜県郷土資料研究協議会、2013年
  - ii 佐伯哲也「萩原諏訪城・大威徳寺の石垣から見えてくるもの」『城から探る飛騨南部の戦国時代資料集』下呂市教委等、2014年
  - iii 佐伯哲也「松倉城の石垣について」『飛騨中世城郭図面集』桂書房、2018年
    - ・飛騨地方の中世城館・山岳寺院石垣を高さ、角度、裏込め石の有無、最大径1mの石の有無等に基づきⅠ期～Ⅳ期に編年。
    - Ⅰ期(天正13年以前、大威徳寺、光寿庵、江馬下館、桜谷城、広瀬城、高堂城、下北城、百足城等)
    - Ⅱ期(天正13～16年、小島城、古川城、萩町城、萩原諏訪城、鍋山城、桜洞城、東町城)
    - Ⅲ期(天正16～20年、松倉城、増島城、高山城(本丸))

IV期（文禄元年（1592）～元禄5年（1692）、高山城（二の丸））

## （2）研究史まとめ

- ・文献②により、近世以来の調査・研究成果が総括。
- ・文献④により、地域の視点から調査成果がまとめられる。
- ・文献⑥により、縄張り図（基礎資料）が出そう。
- ・文献⑥以後、中井均・佐伯哲也による研究の進化。佐伯哲也は編年案を提示。
- ・現状は、縄張り図を駆使した全国レベルの城郭研究の進展。
- ・文献④のような地域の視点はやや薄まった。例えば松倉城は中枢部の織豊系城郭石垣のみ注目されがち。在地系石垣や屋敷地や町場を含めた総合的な研究はこれから。
- ・飛騨市教委の国史跡に向けた取り組み（発掘調査・文献調査等総合調査、現地説明会、講演会等各種イベント）は全国最先端の研究水準を保ちつつ、地域に根付いた研究の伝統を踏まえている点で画期的。

## 5 美濃地方の様相（3グループ） 【第1～4図】

### （1）石垣A類（在地系石垣）

小形～中形の石材による石垣。時々大形の石材を用いる場所もある。裏込め礫を充填する場合としない場合がある。角度は垂直に近い。上下石材の合わせ目（接点）は表面付近。間詰め石はほとんど無い。コーナーに算木積みの意識無い。高さは大体2～3m以下。在地系の技術による石垣。

### （2）巨石石垣

大形の石材主体の石垣。板石状の石を立て並べる場合もある。裏込め礫は全部に充填する場合、下方のみ充填する場合があるらしい。角度は垂直に近い。間詰め石はほとんどない。中部地方（越前、能登、越中、美濃、尾張）の守護・守護代クラスの山城あるいは城下町の入口などに見られる。越前地方北部に集中して存在するため、この周辺の在地技術であった可能性がある。美濃地方では大桑城山上部（山県市）と岐阜城（山上部、山麓居館部）でのみ見られる。

### （3）石垣B類（織豊系城郭石垣）

中形～大形の石材による石垣。角度は傾斜する。上下石材の合わせ目（接点）は表面から奥に入ったところにある。結果として石材間に空隙が出来、そこに間詰め石を多数充填する。コーナーには算木積みの意識が見られる。傾斜をつけて積む。高さは3m以上のものもある。織豊系城郭の技術による石垣。織田信長の居城であった岐阜城では永禄10年（1567）以降、初源的なものが見られる。美濃地方での普及は天正10年（1582）、本能寺の変以後。既存城郭の部分改修は加治田城と小野城の2城。拠点城郭への採用は大垣城で確認できる。東美濃の岩村城や妻木城にも見られるが（天正後半頃以降か）、その後の改変が著しく、部分的な残存にとどまる。

## 6 飛騨地方の様相（予察） 【第1～3・5図】

（1）美濃地方城郭石垣分類の石垣A類（在地系石垣）、石垣B類（織豊系城郭石垣）が広範囲に存在。巨石石垣は未確認。

（2）石垣B類の採用時期は、美濃地方をはじめとする全国の事例からみて、本能寺の変以後、（飛騨においては秀吉の命を受けた金森長近の侵攻後）と見られる。

（3）巨石石垣は飛騨地方では未確認。巨石石垣は室町幕府・将軍に連なる秩序に位置づけられた大名の権威を示す視覚装置と思われる。その推測が妥当なら現状未確認であるが三木氏が巨石石垣を採用した可能性は高い。他地方の事例からみて三木氏の本城（古川城？、松倉城？）に存在するかもしれない。

（4）金森長近による本城・支城体制の構築。城下町建設と連動して城郭（三木時代以来の城&金森時代に築かれた城）中枢部分に石垣B類採用（萩原諏訪城・高山城・松倉城・増島城・東町城）。地域の新たな政治・経済の拠点としての城と町の建設。なお、小島城・古川城は、体制確立の過度期に城郭の一部に石垣B類採用（平成30年度発掘成果）。小島城では町場建設も志向されたと推定（大下永氏御教示）。

（5）金森時代の松倉城は、高山城に先行する拠点機能を持つ城郭。かつ、小牧・長久手の戦い後の徳川家康領、あるいは上杉景勝領を強く意識し、秀吉権力の強大さを誇示するいわば「秀吉の城」か。飛騨の地政学上の重要性を示すのでないか。似た例として美濃金山城（対家康領）や大垣城（織田信雄領を介して家康領に対峙）を想定する。

## 7 今後の課題

- ・報告者の不勉強により全ての城郭を見ることができず、十分な検討が行えなかった。
- ・今後実査を進めると共に、必要な石垣の実測図化にも取り組み、仮説の検証に努める。

## 参考文献（研究史記載の文献以外）

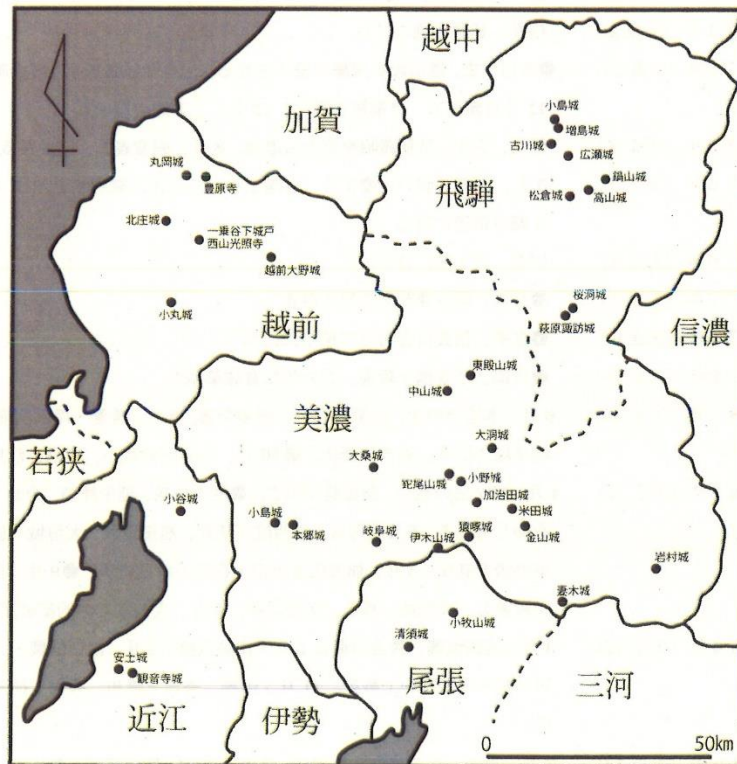
- ・高田徹「豊臣期における西濃地区の城館」『岐阜県中世城館跡総合調査報告書1』岐阜県教委、2002年
- ・下高大輔「関白秀吉政権の城郭体制～天正13年体制～」『西国城館論集Ⅲ』中国・四国地区城館調査検討会、2015年
- ・内堀信雄「美濃における守護所・戦国城下町研究の成果と展望」『「城下町科研」総括シンポジウムⅠ@京都 中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究』2017年
- ・内堀信雄・恩田裕之「美濃・越前地方の戦国期城郭石垣の様相」『戦国時代における石垣技術の考古学的研究 平成28～31年度学術研究助成基金助成金基盤研究(C)(一般)研究成果報告書（織豊期城郭研究会2019年度彦根研究集会資料集）』2019年
- ・下高大輔「豊臣期における支城の成立と変遷～遺跡・遺構の類似性からの「支城」の把握例～」『第24回中国・四国地区城館調査検討会 in 徳島 資料集』2019年

美濃・飛騨略年表（飛騨部分●は『城から探る飛騨南部の戦国時代資料集』下呂市教育委員会等、  
2014年等に基づき作成）

|                  |                                                                                        |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1411年（応永18）      | ●応永飛騨の乱後、三木正頼が竹原郷の代官になる                                                                |
| 1412年（応永19）      | ●白井太郎俊国、久津八幡宮再興                                                                        |
| 1435年（永享7）       | ●飛騨国守護代多賀氏入国                                                                           |
| (1460~1465 寛正年中) | ●三木久頼、益田郡を支配下に置く                                                                       |
| 1467年（応仁元）       | 応仁の乱起る                                                                                 |
| 1471年（文明3）       | ●三木久頼、姉小路基綱に討たれる                                                                       |
| 1473年（文明5）       | 一条兼良、美濃革手下向                                                                            |
| 1477年（文明9）       | 土岐成頼、足利義視・義材を伴い美濃下向                                                                    |
| 1495年（明応4）       | 船田合戦（斎藤妙純 vs 石丸利光）                                                                     |
| 1496年（明応5）       | 城田寺合戦で石丸利光ら敗死。同年、斎藤妙純ら近江で敗死                                                            |
| 1509年（永正3）       | この頃、美濃国守護所革手から福光へ移転                                                                    |
| 1516年（永正13）      | ●三木重頼死去。直頼が跡を継ぐ                                                                        |
| (1504~1520 永正年中) | ●三木直頼、桜洞城築城                                                                            |
| 1525年（大永5）       | 長井長弘・新左衛門尉勘次郎「山入」。朝倉氏が土岐に<br>合力して稲葉山城攻撃。この後、土岐頼芸が守護就任                                  |
| (1504~1527 永正大永) | ●直頼、馬瀬・阿多野郷攻略                                                                          |
| 1532年（天文元）       | 美濃守護所、枝広へ移転                                                                            |
| 1533年（天文2）       | 長井新左衛門尉死去。長井新九郎規秀（道三）が跡を継ぐ                                                             |
| 1535年（天文4）       | 長良川大洪水。美濃守護所大桑城へ移転。天文4~5年の内乱。                                                          |
| 1539年（天文8）       | 美濃国内乱終息。この年以降、道三、稲葉山城改修、井口城下町建設。●9月、<br>直頼、畑佐氏救援のため三木新助を郡上に出馬させる                       |
| 1540年（天文9）       | 美濃国大桑城山麓の十五社神社に越前笏谷石製狛犬奉納。●8月、直頼、土岐<br>氏の求めに応じ、三木新九郎を東美濃に出陣させる。姉小路三家・江馬・広瀬<br>の兵、これに加勢 |
| 1543年（天文12）      | 大桑城の戦い                                                                                 |
| 1544年（天文13）      | 加納口の戦い。土岐頼純・朝倉氏・織田氏 vs 道三                                                              |
| 1548年（天文17）      | 信長と道三の娘・濃姫（帰蝶）結婚                                                                       |
| 1550年（天文19）      | この頃、道三、土岐頼芸追放                                                                          |
| 1554年（天文23）      | ●三木直頼死去。良頼、跡を継ぐ                                                                        |
| 1556年（弘治2）       | ●3月、姉小路三家居城の落城が迫る。4月長良川の戦い。道三 vs 義龍。道三<br>敗死                                           |
| 1558年（永禄元）       | ●良頼、従五位下飛騨守に任命される                                                                      |
| 1559年（永禄2）       | ●良頼の子、自綱、飛騨国司に任命される                                                                    |

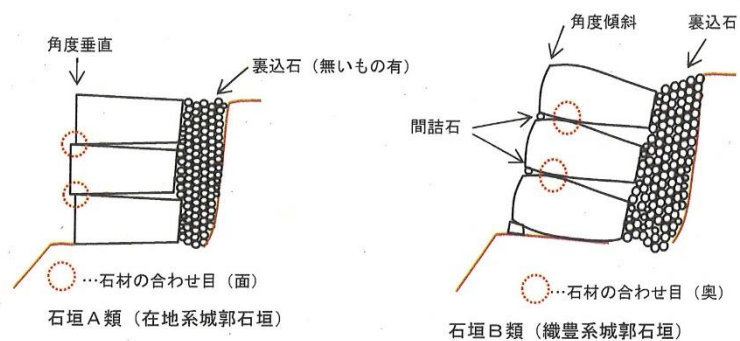
|             |                                                                                                                                               |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1560年（永禄3）  | ●2月、良頼、姉小路古河を名乗ることを許される。3月、桶狭間の戦い。信長、今川義元を破る                                                                                                  |
| 1562年（永禄5）  | ●2月、良頼、従三位に任命され、姉小路嗣頼と改名。12月、良頼、権中納言への昇進を望むも許されず。                                                                                             |
| 1567年（永禄10） | 信長、稲葉山城を占領。斎藤龍興追放。城と町の名を岐阜と改め、小牧山から居城移転                                                                                                       |
| 1568年（永禄11） | 信長、足利義昭を奉じて上洛                                                                                                                                 |
| 1569年（永禄12） | ポルトガル人宣教師ルイス・フロイス、公家山科言継来岐                                                                                                                    |
| 1570年（元亀元）  | ●3月、信長の号令に応じ、三木自綱が良頼の名代として上洛。6月、姉川の戦い                                                                                                         |
| 1571年（元亀2）  | 信長、延暦寺焼き打ち                                                                                                                                    |
| 1572年（元亀3）  | ●武田信玄、遠山氏を飛騨に侵入させる。三木軍と威徳寺にて合戦（この頃？）、11月良頼死去、自綱跡を継ぐ。12月、三方原の戦い                                                                                |
| 1573年（天正元）  | 信長、7月、足利義昭を京から追放。8月、朝倉義景、浅井長政を滅ぼす。                                                                                                            |
| 1575年（天正3）  | 5月、長篠の戦い。●9月、自綱上洛して信長に駿馬献上。11月、信長、家督を嫡男信忠に譲る                                                                                                  |
| 1576年（天正4）  | 信長、安土城に移る                                                                                                                                     |
| 1577年（天正5）  | ●自綱、岡本豊前守夫婦を殺害                                                                                                                                |
| 1578年（天正6）  | ●自綱、信長に合力して越中に出兵                                                                                                                              |
| 1579年（天正7）  | ●自綱、子宣綱を殺害。この年松倉城築城か                                                                                                                          |
| 1582年（天正10） | 6月、本能寺の変。山崎の戦い。清須会議。8月、美濃・尾張国境問題。12月、岐阜城の信孝、秀吉に降伏。●10月、八日町の戦い。自綱、江馬輝盛を破る                                                                      |
| 1583年（天正11） | 4月、賤ヶ岳の戦い。柴田勝家滅亡。●佐々成政、越中拝領、合せて「飛騨取次」を命じられる。5月、秀吉、従四位下任命。池田恒興、大垣城へ国替。森長可、東美濃を制圧。8月、稲葉氏と池田・森氏が境目紛争。●9月、自綱、広瀬宗城を殺害し、高堂城へ移る。9月以降、秀吉、大坂城本格的築城開始   |
| 1584年（天正12） | 3月、池田恒興、秀吉の命により犬山城攻略。4月、池田恒興・元助父子・森長可、長久手の戦いで戦死。11月、信雄、秀吉と講和。秀吉、従三位権大納言叙任。                                                                    |
| 1585年（天正13） | 3月、秀吉、正二位内大臣叙任。7月、秀吉、関白任官。●8月、羽柴秀吉、越中侵攻。佐々成政降伏。金森長近、飛騨侵入。松倉城に三木氏を破る。8月？大垣城主加藤光泰、秀吉の怒りを買って追放。一柳直末を大垣に入れ、蔵入地を管理させる。11月、●大地震により内ヶ島氏の綿雲城埋没、大垣城焼失。 |

- 第4図出典 1…内堀信雄・鳥本浩平実測、2…内堀・鳥本実測、3…内堀・井川祥子実測、  
4…内堀実測、5・6…岐阜市教育委員会『千疊敷Ⅰ』1990年、7…可児市教育委員会『金  
山城跡発掘調査報告書』2013年
- 第5図出典 8…内堀信雄・内堀照子・鳥本浩平実測、9…天木日出夫「山城における高石垣と算木積み  
について」『岐阜市歴史博物館研究紀要』第4号、1990年、10…内堀信雄・井川祥子・鳥本  
浩平実測

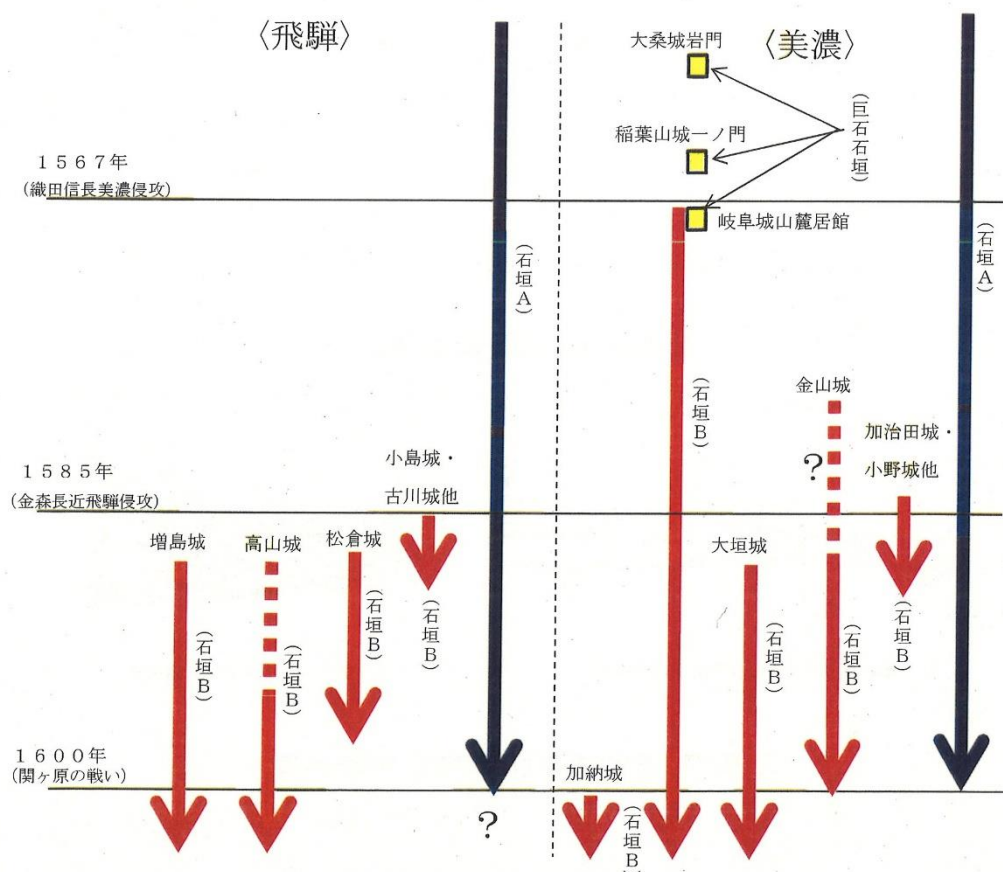


第1図 位置図



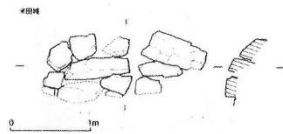


第2図 石垣A類、石垣B類断面模式図

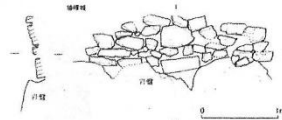


第3図 石垣変遷図

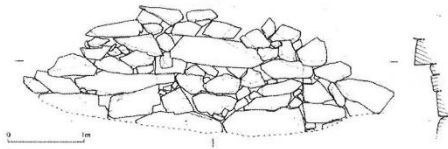




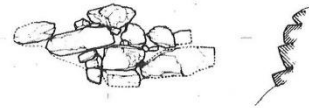
1 美濃加茂市・米田城（石垣A類）



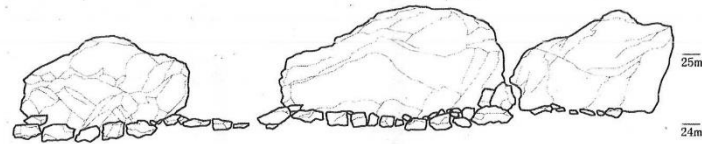
2 坂祝町・猿ばみ城（石垣A類）



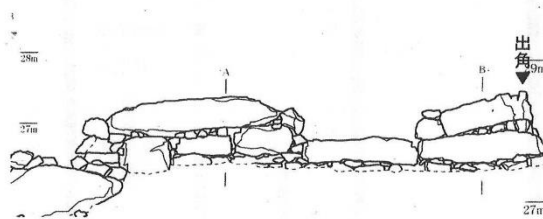
3 揖斐川町・小島（おじま）城（石垣A類）



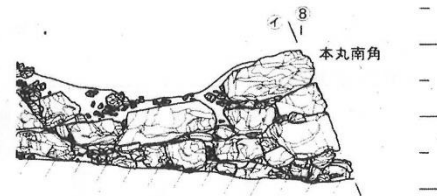
4 山口市・大桑城（石垣A類）



5 岐阜市・岐阜城山麓居館（巨石石垣）

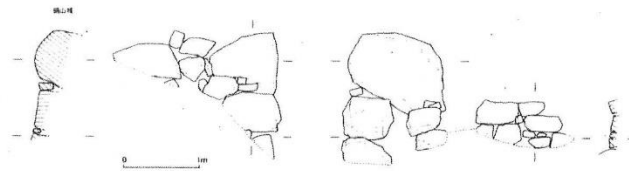


6 岐阜市・岐阜城山麓居館（石垣B類）

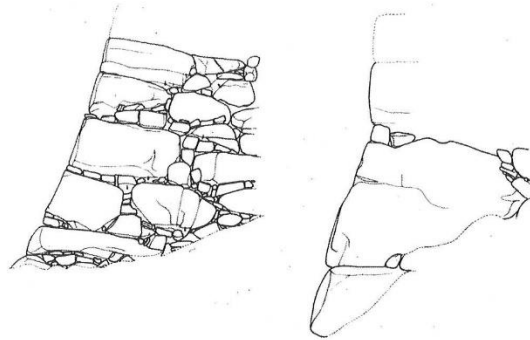


7 可児市・金山城（石垣B類）

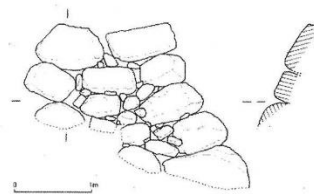
第4図 美濃地方各類石垣実測図（スケール同じ）



8 高山市・鍋山城（石垣A類？）



9 高山市・松倉城（石垣B類・aグループ）



10 下呂市・萩原諏訪城（石垣B類）

第5図 飛騨地方各類石垣実測図（スケール同じ）